



親の会だより

第81号平成27年8月 発行

東大阪市手をつなぐ親の会
(年 3回)

(題字 吉岡名誉顧問)

総会時の挨拶

会長 坂本 ヒロ子

5月29日(金)、平成27年度東大阪市手をつなぐ親の会の総会をご来賓の方々をお迎えし、皆様の参加を得、開催できることをとてもうれしく思います。

ご来賓の皆様、本日はお忙しい中、ご臨席下さいましてありがとうございます。

いつも親の会の活動にご支援下さいましてありがとうございます。

改めて申すまでもなく、東大阪市手をつなぐ親の会は子供達に必要な事業を展開するため(社会福祉法人)青山会を子どもの権利を守るため(特定非営利)東大阪成年後見支援センターを立ち上げ、安心安全な場所づくりにつとめ、応援しております。

先ほど、東大阪成年後見支援センターの総会でも、27年度より東大阪市の補助事業から委託事業となりましたことを報告させていただきました。東大阪成年後見支援センターの東大阪市における役割り、必要性を評価していただいたことに感謝申し上げます。ありがとうございます。

2025年には、800万人の人の後見が必要になるともいわれております。これからますます必要となってくる事業です。そして、法人後見だけでなく、国際障害者権利条約に批准した今、権利擁護事業にも関わっている東大阪成年後見支援センターの役割は、その部分でもますます重要になってまいります。今後も実績を積み重ね、評価していただけるようつとめていきたいと思っております。今後ともご支援よろしく願いいたします。

もう一つ私達の活動は、東大阪市に住む知的障害のある人の声を東大阪市の政策に反映させていくことです。毎年、市長に要望書を提出させていただき、そこで東大阪市における知的障害者の実情、親の想いを聞いていただいております。ありがたく思います。

それと共に現在では、皆さんの声を反映させる場所として、東大阪市には社会福祉審議会、自立支援協議会があります。その両会議の委員として、知的障害者の代弁者として意見を述べ、提案、提言をさせていただいております。

その一つの自立支援協議会には、本日もご臨席いただいております橋副市長も委員と

して入って下さり、意見、提案、提言を聞いて下さっております。ありがとうございます。このように、要望のあり方も変化してきております。

先日、アンケート調査を実施し、その結果を総会資料 23～24 ページにのせさせていただいておりますが、その意見に親、子の高齢化、親亡き後に対する不安が書かれておりますし、よく耳にもいたします。自助努力だけでは解決しない部分も多く、国、府、市へ声を届けたいと思っております。

来年から施行される障害者差別解消法も共生社会に向け、正しく知的障害を理解してもらうため、親の会はここ数年、社会福祉協議会と協力してさせていただいておりますが、親の会として一人の知的障害のある子を持つ親として努力するとともに、東大阪市においても、障害理解の啓発をお願いしていきたいと思っております。

このように、東大阪市手をつなぐ親の会の役割は、地域で私達の子供が心豊かに安心・安全な生活ができるよう活動することです。皆様の声を聞きながら、今年度も活動していきたいと思っております。ご協力よろしくお願いいたします。

いつも親の会の総会にご臨席していただいている野田市長からメッセージをいただきました。今日は地方公務のため不在でしたので、ご臨席いただいております橘副市長より代読していただきました。ここで紹介させていただきます。

ご挨拶

本日、東大阪市手をつなぐ親の会総会が、盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。また、平素は、本市障害福祉行政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、貴会におかれましては、昭和42年の設立以来、知的障害児者の正しい理解と適切な支援、福祉活動の推進に取り組んでこられ、この間、成年後見支援センターの活動や本市自立支援協議会権利擁護部会にご協力をいただいているところであり、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

本市におきましても、障害者基本法の改正をはじめとする国内法の整備など国の動きに注視しながら、引き続き障害のある方が地域で自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じた支援を進めてまいりますので、今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴会の今後益々のご発展と、本日ご臨席の皆様のご健勝ご多幸を祈念いたしまして、お祝いのごことばとさせていただきます。

平成 27 年 5 月 29 日
東大阪市長 野田 和義

「家族支援ワークショップ」改め

「しゃべりま専科！！！」

副会長 瓜生 みのり

全国手をつなぐ育成会連合会は、2008年から厚生労働省の助成金をいただき、「家族支援プログラム」正式名称「親自身が変わろう！知的障害者親の会によるわが子の権利擁護・地域生活支援プログラム開発」や「障害認識プロジェクト」正式名「障害とは何か ～知的障害者親の会による障害認識・啓発プログラム開発～」と云うような、まず親自身が変わろうをテーマに、子育てと親自身の人生のバランスをどのように取って行くのかを考えるきっかけになるようなプログラムを開発されました。

東大阪市手をつなぐ親の会でもファシリテーター養成講座に参加し、2年前から4名のファシリテーターが新たに誕生し、現在6名のファシリテーターでワークショップを開催してきました。

当初は、ワークショップって何か作るの？の思いで参加された方も、一番初めの取っ掛りの「導入のためのワーク（他己紹介等）」でお話していただくことで緊張もほぐれ、穏やかな雰囲気の中、その日のテーマに添って話し合い、これまでいろいろな学習プログラムや点検ワークに添ってワークショップを行ってきました。また他の人の言葉を傾聴することで、障害のある子どもをもつ親同士共感し、素直になれ、前向きに考える事が出来た とのお声もいただきました。

これからは、皆さんの今一番気になっている事や話したいこと、聞きたいことをテーマにすることとし、また皆さんに親しんでいただける名称も含めて、昨年度末にアンケートを実施させていただきました。たくさんの方のご協力本当に有難うございました。誌面をお借りしましてお礼申し上げます。

アンケートの結果「しゃべりま専科！！！」と名称も新たに、気になることランキングの上位からテーマを決めて、ファシリテーターも気持ちを新たに開催してまいります。皆様方のたくさんのご参加、どうぞ宜しくお願い致します。

レク部会(5/24)と施設見学会(7/23)に参加しての感想をいただきました。紹介させていただきます。

レク部会(淡路花博花みどりフェア)

とうふく布施 K・M

出発当日、天気予報では雨天と予報されていたのですが、みごと予想を裏切り、雲一つない晴天に恵まれ、バスは一路、淡路島に向かって出発しました。その観光バスも福祉の恩恵で、格安でお借りできたとの事で、そのお陰もありバスは満席でした。

二回のトイレ休憩を取り、目的地淡路島明石海峡公園に到着しました。淡路島には、以前何回か家族で来た事があるのですが、明石海峡公園は初めてだったので、目に映る景色が皆、新鮮で美しく、季節折々の花々もきれいに咲きそろう感動しました。

現地解散で三時間後に集合と言う事で、それぞれが行きたい所へ向かい、私達は、先ず腹ごしらえと思い、近くのレストランへ入りお腹を満たしました。

池の廻りの散策やアヒルのボートに乗ったりしている内にあっという間に時間が過ぎました。もっと行きたい催会場が沢山あったのですが、後髪を引かれる思いで帰途につきました。

これも、いつも色々なイベントを考えてくださる親の会の役員の方々の努力のお陰だと感謝しています。ありがとうございました。

施設見学会(大阪手をつなぐ育成会「支援センターつなぐの」)

とうふく布施 久家 久美子

以前より、家から近くでもあり興味も持っていたところだったので見学会に参加させていただきました。

俊徳道駅からすぐ近くの事務所で説明を聞き見学へ。JR高架下利用の水耕栽培ハウスまでは徒歩10分位、この頃には朝の雨も止んでいて良かったです。

今は栽培していない研修ハウスで装置の説明を受け、隣の栽培ハウスの入り口からガラス越しに作業の様子を見学しました。遠くからで手元の様子までは分かりませんが、葉っぱを量って包装している様でした。

気温や栽培液の管理、365日成長する野菜の収穫と、長期休暇中の職員の苦労はありますが、収穫の喜び、買って貰う喜びが味わえると思いました。20人の定員のところ、現在利用者は7人との事、もっと増えてほしいですね。

お土産に頂いたサンチェは、早速焼肉をして美味しく頂きました。でも野菜は土と太陽のもとで自然。頂いたサンチェにひ弱さを感じ複雑でした。